

第3回 最上小国川流域環境保全協議会

1. 第2回協議会指導事項の調査報告

第2回協議会指導事項の調査報告

- 昆虫類について
- 猛禽類について
- 植物(藻類)について
- その他について

第3回 最上小国川流域環境保全協議会

ヒメギフチョウの調査報告

これまでに実施した動物・植物調査

区分	項目	調査時期
陸域	昆虫類	平成11年:5月24～28日,7月19～23日,10月20～22日 平成15年:5月27～29日,7月14～16日,9月24～26日 平成19年:7月19～20,23～24日,8月15～16日
	植生	平成11年:7月24・31日,8月8・10日
	植物相	平成11年:5月24～26日,6月3日,7月24・31日,8月8・10日, 10月14～16・27日 平成15年:5月19～21日,8月18～20日,9月25～27日
	植物群落	平成11年:8月3・4・8日,10月27・28日

●早春季に昆虫類の調査を実施していない

●植物調査でウスバサイシン(国・県の重要種対象外)を確認



第2回協議会において、早春季に発生し、ウスバサイシンを食草とするヒメギフチョウが生息する可能性についてご意見をいただく。

ヒメギフチョウについて

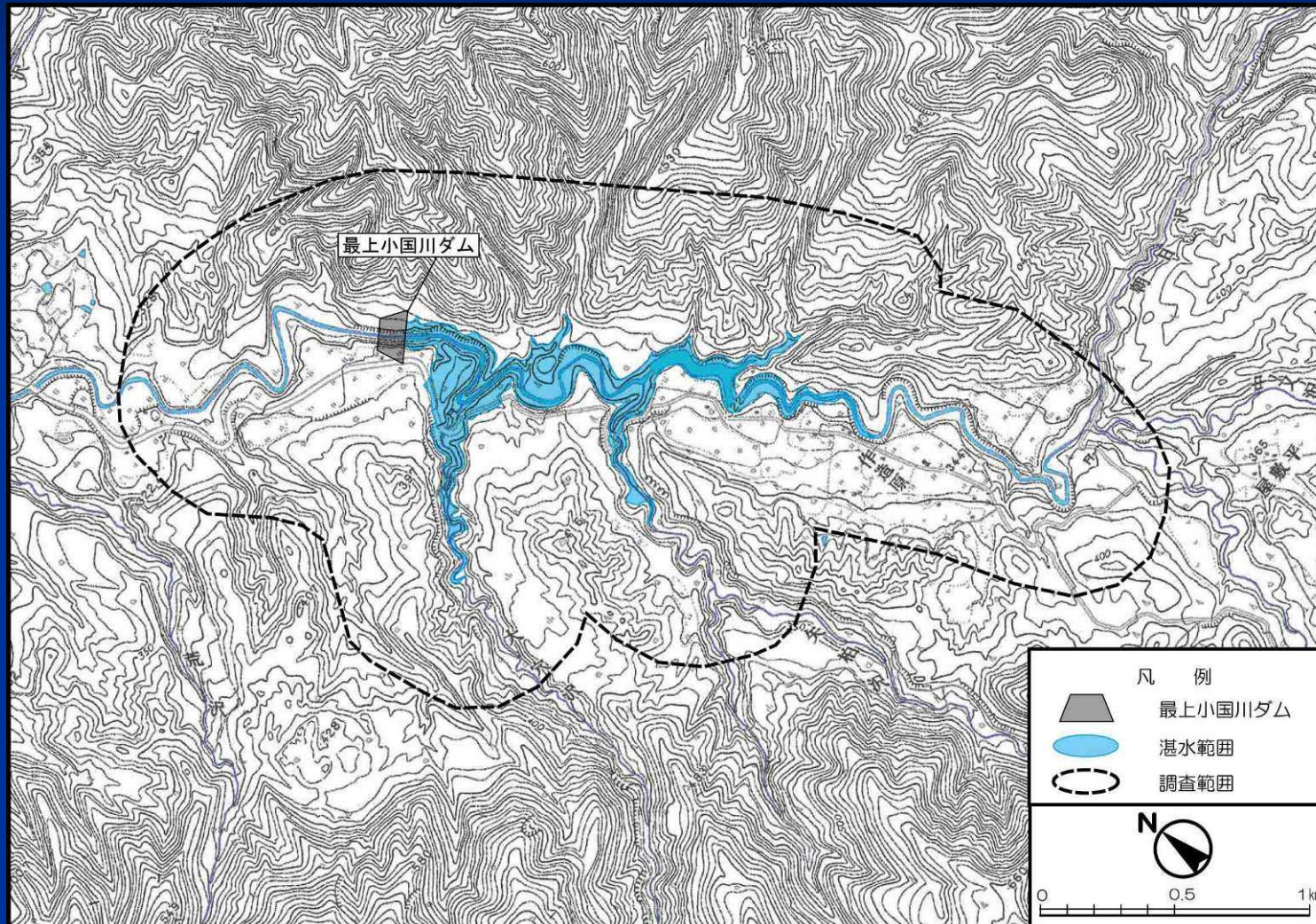
重要性のレベル	●環境省レッドリスト → 準絶滅危惧 ●レッドデータブックやまがた → 要注目種
一般的な生態	●さなぎの状態ですで冬を越し、本州では4～5月に発生する。 ●幼虫の食草はウマノスズクサ科のウスバサイシンなど。 ●成虫は晴天時に活動し、特にカタクリの花を好んで吸蜜に訪れる。
山形県における 確認状況等	●山形県にはヒメギフチョウとギフチョウの分布境界線（ルードルフィア線）が通っている。 ●最上地方では新庄市、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村で生息が確認されている。（出典：レッドデータブックやまがた） ●県内では、4月上旬の上山市滝不動で最も早く、5月上旬の西川町月山山麓で最も遅く発生する。

調査方法

調査地域	最上小国川ダム事業による改変区域及びその周辺500mの範囲
調査時期 調査頻度	平成21年4月23日～25日、5月2日の4日間
調査項目	●ヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンの群落分布。 ●ウスバサイシンの葉に付着するヒメギフチョウの卵の有無と産卵数。 ●カタクリ、リュウキンカの生育地や林縁部などのヒメギフチョウ成虫が出現しやすい場所における成虫の生息確認。
調査手法	●現地踏査によるウスバサイシン及び卵の直接観察 ●成虫の任意採集（スィーピング法）

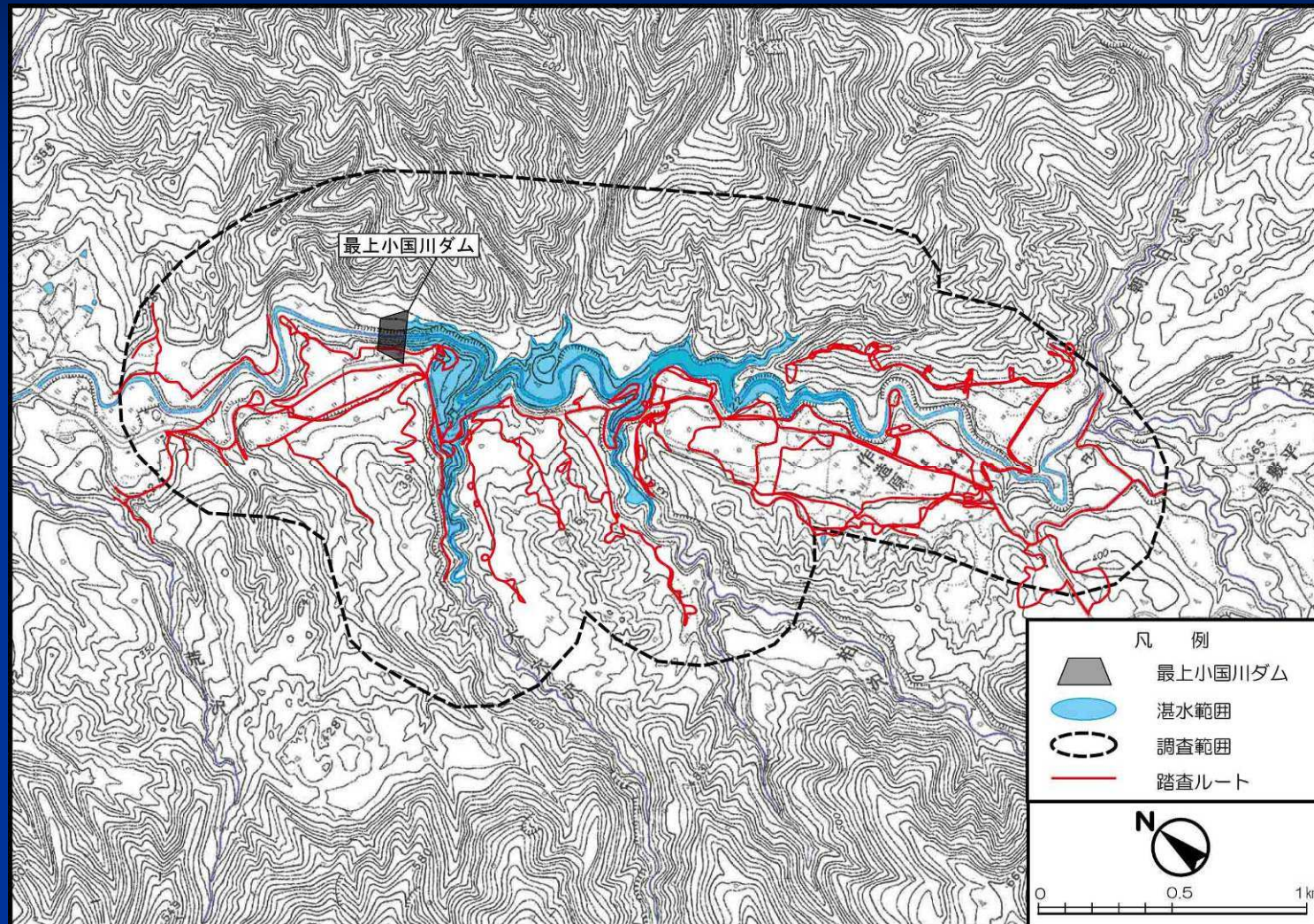
調査範囲

- ・ 改変区域及びその周辺500mの範囲



調査結果①

・ 現地踏査ルート図



※地形、植生を勘察し、ヒメギフチョウの生息の可能性のある場所を踏査した。

調査結果②

・ 調査結果のまとめ

項目	調査結果
ウスバサイシンの 確認状況	5箇所分布を確認。多いところでは100個体以上。
カタクリの確認状況	9箇所分布を確認。多いところでは1000個体以上。
ヒメギフチョウの 確認状況	成虫の飛翔及び産卵(ウスバサイシンへの卵の付着)は確認されなかった。
その他	上記確認地点のうち、3箇所においてウスバサイシンとカタクリの混群を確認。

調査結果③

- ・ウスバサイシン及びカタクリの確認位置図

貴重種の保全の観点から、配布資料には
添付しませんでした。

ご了解下さい。

調査結果④



ウスバサイシン(葉)



ウスバサイシン(葉)



ウスバサイシン(花)



カタクリ(群生)



カタクリ(花)



カタクリ(花)

ヒメギフチョウの調査報告

以 上